

にある。ちなみに、病院側の要請で付添婦を雇うことになった場合、付添婦に不満を感じた家族は、全体平均と変わらず13.4%であった。

また、付添婦への不満は、付添婦の年齢が60歳を超えると、不満をもつ家族が9.6%（60歳未満）から、24.4%に増える。

8 付添期間の見通しがたたくて困った

付添うことによって、特に付添が長期化することによって、家族の疲労等、様々な問題が生じていることが明らかになったが、家族としては、付添わねばならないなら、せめて付添期間の見通しがたてば、家族としても自分たちの態勢を整え、少しでも問題を軽減することができる。これには、

病院側がその見通しを説明しておくことが必要となる。が、今回の調査では、実際に付添った家族の26.1%が、「どの位の期間付添うのか見通しがたたくて困った」と答えている。

付添った期間が長くなり、家族の疲労、職業、家庭生活、家計への差し障りが大きくなるにつれ、見通しがたたくて不安を覚えた家族が多かった。

付添期間の見通しがたたくて困った家族は、基準看護病院で25.8%、普通看護病院で26.5%とあまり変わらない。普通看護病院では付添が認められているので、付添期間の見通しの説明が行き届いているかという点、必ずしも十分ではない。

III 病院看護の評価と期待

1 看護婦に対する不満

病院の看護婦の対応で不満だったことをすべて選んでもらったところ、不満はあまり出なかった<表22>。基準看護病院であるかないかによる違

いはほとんどない。

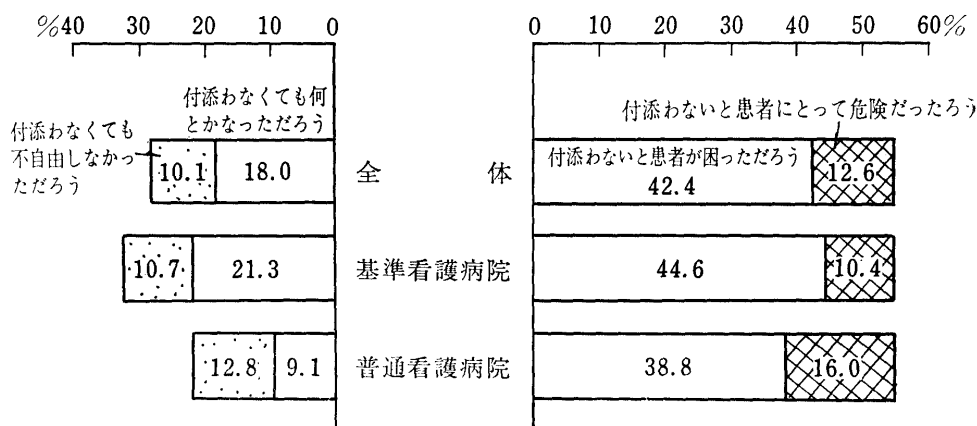
2 受けた病院看護の評価

今回の調査では、受けた看護が十分であったかについて「ご家族の方が入院中、かりに誰も面会

表22 看護婦に対する不満（複数回答）

不満の内容	基準看護承認の有無		
	全 体	基準看護病院	普通看護病院
看護婦によって言うことがちがった	8.9%	10.9%	5.6%
言葉使いや態度がそっけなかった	7.9	8.1	7.8
症状や検査のことなど聞いてもきちんと説明してくれなかった	6.3	7.0	5.1
入院生活の諸規則をきちんと教えてくれなかった	5.3	5.4	5.1
呼んでもすぐ来てくれなかった	4.4	5.2	3.2
患者の看護の仕方を教えてくれなかった	4.0	4.5	3.2
少しの間患者のそばを離れる時、みてくれなかった	2.5	2.5	2.4
医師と看護婦で言うことがちがった	2.0	2.0	1.9
付添っている家族や付添婦をさけているようだった	1.2	1.7	0.5
相談にのってもらえなかった	0.7	0.2	1.6
その他	3.6	4.2	2.7
調 査 対 象 数	970人	596人	374人

図20 受けた病院看護の評価



時間以外に付添わなくて病院にまかせてもあなたのご家族（患者）は不自由なかったと思いますか」とたずねた。その結果、55%の家族は、「付添わないと患者が困ったらう」「付添わないと患者にとって危険だったらう」と答え、受けた病院サービスが不十分であると考えていたことがわかった<図20>。

「付添わないと患者が困ったらう」「付添わないと患者にとって危険だったらう」と答えた家族にどのような点でそう思うかを自由記述で聞いた。その結果、一時でも目を離すと危険な状態だったこと、用便・食事、細かな身の回りの世話等で患者が困るだらうということ、患者が子供なので母親が付いていないと十分な世話が受けられないと思ったことをあげる者が多かった。一部には、病院看護がいくら充実しても家族が付くことにはかえられない内容のものもあったが、多くは、病院看護の不十分さを示すものであった。ただ、その表現から推察する限り、書いている家族自身は病院看護が不十分であると必ずしも意識していない記述も多かった。

3 病院看護への期待

「家族が入院した時、付添わなくても患者の世

話が原則的に病院に安心してまかせられるようになることを望みますか」と聞いたところ、8割の家族が「ぜひ望む」「できれば望みたい」と答え病院看護の充実を望んでいた<図21>。ただし、「ぜひ望む」と強く希望する家族は4割にとどまり、「できれば望みたい」と遠慮がちに希望する家族も同じ程度をしめた。病院看護への期待はあるものの、どこまで望んでよいものかわからないという気持ちがあらわれたものと考えられる。ちなみに、患者調査では、付添の付いた場合は付かない場合に比べて、病院看護への期待が低いことが明らかになっていることから、この質問の回答者がすべて付添を付けた家族の意見であり、入院患者の家族全体の希望とは少々異なる可能性があることを考慮する必要はあろう。

また、今回の入院で付添うことが負担になっている家族、つまり、付添える人がいなくて困ったり、付添婦を雇わざるをえなかったり、疲労したり、仕事をやめざるをえなかったりした家族は、そうでない家族よりも「ぜひ望む」と強く期待することが多い<図21>。

また、都市では、付添える人がいなくて付添婦に頼らざるをえない家族が多いこともあって、病院看護の充実を望む人が他の地域に比べて多い

図21 付き添える人がいたかどうか別病院看護への期待

「あなたは、家族が入院した時、付き添わなくても患者の世話が原則的に病院に安心してまかせられるようになることを望みますか」

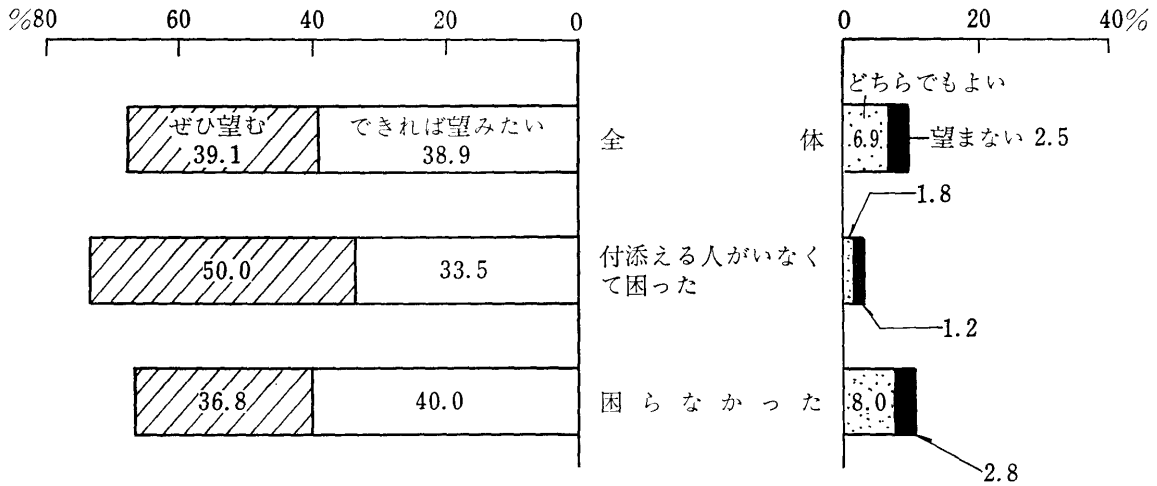
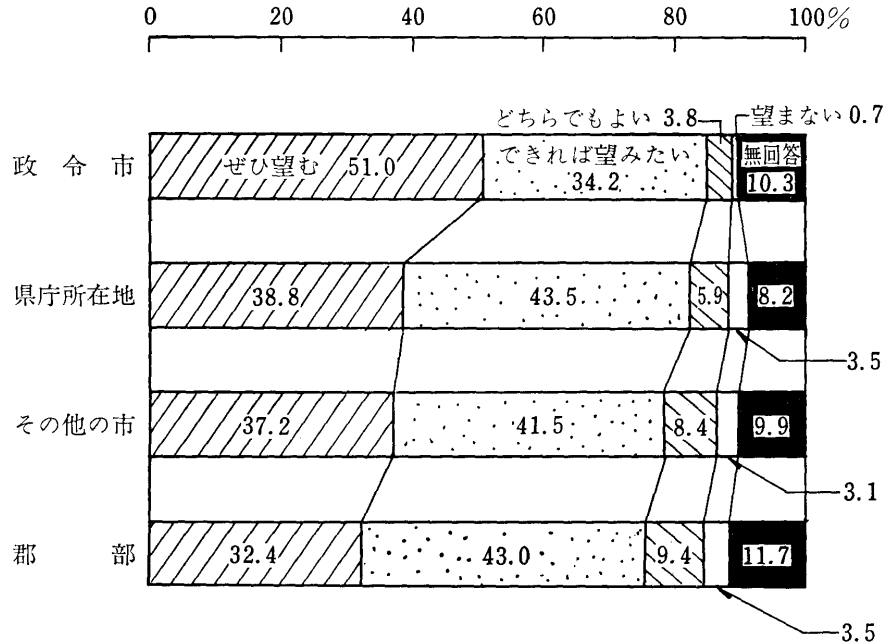


図22 居住地別病院看護への期待

「あなたは、家族が入院した時、付き添わなくても患者の世話が原則的に病院に安心してまかせられるようになることを望みますか」



<図22>。

次に、現実に受けた病院看護と、期待との関係をみると、病院看護に期待している家族（「ぜひ望む」

「できれば望みたい」と答えた家族)の56.6%は、現に受けた看護が不十分だと考えていた

<表23>。

昭和55年付添看護調査〔家族調査〕

表23 病院看護への期待と評価

評 価*	期 待**		どちらでもよい	望まない	無回答	計
	ぜひ望む	できれば望みたい				
付添わなくてもまったく不自由しなかっただろう	52人	27	6	2	11	98 (10.1)
付添わなくても何とかあっただろう	74	69	16	1	15	175 (18.0)
付添わないと患者が困っただろう	145	179	30	18	39	411 (42.4)
付添わない患者にとって危険だっただろう	63	41	5	1	12	122 (12.6)
無回答	45	61	10	2	46	163 (16.9)
計	379 (39.1)	377 (38.9)	67 (6.9)	24 (2.5)	123 (12.7)	970 (100.0)

*「評価」：「ご家族の方が入院中、かりに誰も面会時間以外に付添わなくて病院にまかせてもあなたのご家族（患者）は不自由なかつたと思いませんか」

**「期待」：「あなたは、家族が入院した時、付添わなくても患者の世話が、原則的に病院に安心してまかせられるようになることを望みますか」

IV 付添うことについての家族の意識

1 家族のあげる付添った理由

家族が付添った理由について、選択肢を設け、あてはまるものすべてを選んでもらった。そして、中でも一番強い理由に◎をつけてもらった。その

結果は<表24>の通りである。

家族のあげた理由としては、「患者のことが心配だったから」「患者が希望したから」という、家族自身が付きたがっていることをうかがわせる理由が多く選ばれている。

表24 家族のあげる付添った理由

付添った理由	複 数 回 答		一 番 強 い 理 由	
	基準看護病院	普通看護病院	基準看護病院	普通看護病院
患者のことが心配だったから	78.9%	53.5%	47.0%	28.3%
患者が希望したから	30.9	17.9	7.6	3.5
医師、看護婦に言われたから	19.2	40.4	4.9	24.9
病院の看護だけでは世話が不十分だと思ったから	19.1	20.3	5.0	7.2
家族が入院したらだれか付添うのが当然だから	22.4	18.2	4.5	4.0
危篤状態だったので	12.1	13.6	5.7	8.0
退院後の患者の訓練介護の方法を家族が身につけるため	5.5	4.8	0.7	0.8
面会に通うのが不便だったので	2.7	2.7	—	0.8
他の患者やその家族への気がねから	2.9	1.6	0.2	—
親戚・隣近所の手前	0.3	1.1	—	—
その他	4.9	1.6	2.7	1.1
無回答・不明	.	.	21.7	21.4
計	596人	374人	100.0	100.0